

# 外郭団体ミッション遂行評価票

# 【令和3年度取組結果】

団体名	北九州高速鉄道株式会社
-----	-------------

所管課	建築都市局 都市交通政策課
-----	---------------

団体に対するミッション
公共交通機関として重要な役割を担う北九州モノレールの安全・正確・快適な管理運営を行うとともに、経営を安定化させる。

行財政改革大綱における見直し内容
沿線の少子高齢化等の進展による利用者数の減少や車両等大規模設備の更新など、今後も厳しい経営状況が見込まれるため、応分の受益者負担等も含め、中長期の経営計画を策定し、それに基づき、経営の安定化を図る。

## ミッションに基づく中期計画

3～5年後に目指す状態	令和1年度策定の「北九州モノレール新中期経営計画（R2～R6）」に基づき、安定した経営基盤の強化を図る。								
主な成果指標	年度ごとの目標及び実績（太枠は最終目標年度）								
	H29	H30	R1	R2	R3		R4	R5	
	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	目標	
運転事故の件数	0件	0件	0件	1件	0件	0件	0件	0件	
経常黒字化への取組み	経常利益の確保	46 百万円	91 百万円	4 百万円	△347 百万円	215 百万円	428 百万円	215 百万円	新型コロナウイルス感染症拡大による影響から、中期経営計画の見直しを行う予定
	償却前利益の確保	711 百万円	765 百万円	662 百万円	253 百万円	335 百万円	504 百万円	323 百万円	
輸送人員（人／日）	33,930人	34,204人	33,883人	24,389人	27,253人	27,904人	27,019人		

## ミッションの遂行状況の評価（令和3年度）

団体における評価	<p>当期は、引き続き保安設備等の更新や教育訓練を計画的に実施し、安全・正確・快適な運行に努めた。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じたうえで、収入の確保に努めるとともに、北九州市立大学地域創生学群と包括的連携協定を締結する等、地域との連携に積極的に取り組んだ。併せて、業務効率化等のコスト削減に努めた。</p> <p>結果、前期に実施した固定資産減損処理等による減価償却費等の固定費削減効果もあり、経常損益及び当期純損益は利益を計上した。</p> <p>しかし、今後予定している設備更新には莫大な費用が必要なことから、新規技術の導入や設備スリム化を視野に入れた設備更新計画の策定と合わせ、その資金確保の方策について検討を進めている。</p>	市の評価	<p>当期は、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んでいた輸送人員に一定の回復が見られたことや、前期に実施した固定資産減損処理による固定費の減少などで、黒字を計上することができた。</p> <p>また、小倉駅公共連絡通路にデジタルサイネージを5基設置するなど、収益確保だけでなく、北九州市の玄関口である小倉駅の魅力づくりにも貢献した。</p>
今後の課題及び見直し内容（案）	令和元年度策定の「中期経営計画（R2～R6年度）」については、新型コロナウイルス感染症拡大による環境の変化や設備更新計画の策定と合わせ、その資金確保の方策等の課題を整理したうえで見直しの要否について検討を行う。	団体への改善指導内容（案）	依然として新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、今後は車両等の設備更新を控えているなど大変厳しい状況が続くが、中期経営計画のもと、市と緊密に連携しながら、引き続き収入増施策やコスト削減に取り組んでいただきたい。

## その他～「行財政改革大綱における見直し内容」の取組み状況

見直しの分類	特に経営状況を注視する団体
<p>新型コロナウイルス感染症拡大による営業収入の減少に対応するため、令和元年度策定の「中期経営計画（R2～R6年度）」に基づき、乗車人員並びに収入増施策として、地域との連携に積極的に取り組むとともに、種々のコスト削減に努めた。</p>	